

Title	浜口さんをしのぶ
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 7 P.13-P.14
Issue Date	1974-07
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/7527">http://hdl.handle.net/11094/7527</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 浜口さんをしのぶ

理研社々長の浜口さんが亡くなった。大物が倒れたと感じる。百キロの巨体をエネルギーに動かして関西低温グループだけでなく日本中の低温グループのためにという気持で走りまわっていた浜口さん。若い学生達とも教授達とも同じような本当に人間的な態度で接し、ねじ一本の注文から低温設備一式まで、前向きの姿勢で取り組んで呉れていた社長。我々の研究に側面から大きな貢献をしてくれたことを感謝しながら、関西の研究者の一人として皆の声を代表して浜口氏に追悼の一文を書きたいと思えます。

私が大阪へ来て間もなく世話になった時、浜口さんは東理社の下で関西地区への低温器機の販売をしていた。その彼が独立して会社を始めようとした時は、私も大いに賛成して東京地区の人の紹介もしたのであった。41年12月に独立して以来、東京大阪間を徹夜で車を運転して真空低温器機を中心に売りまくり、着実に会社は伸びて行った。

いったい実験研究などと言うものは、パッキング一つ、パイプ一本のさあという時のある無しでその進展に重大な影響が出るものである。いわゆるカタログに乗せられないような品物が常に必要になって来るものである。その意味から考えても、ある程度の専門知識を持った人が研究の資材を集めてくれないと、我々の仕事は進まない。最近の管理化組織化が進んで来た社会は研究にとっては住みにくい所である。浜口さんは自分の商売をより深く理解するために本を読み、人に話を聞き、研究者のどんな要求にも対応できるように常に心掛けていた。信用とは何かを知っており、又大きな所と細部の問題を見分け、分離して考える能力はやはり船場商人の血を引いたものであったろうか。彼が集めた品物や知識がどれだけ我々の研究に貢献したかはかりしれない。

すでに5年前になったが、東京から荷物を積んでの帰えり、大雨の一号線では浜口氏は事故に会った。コンクリートの壁に車が衝突し彼は重傷を負ったが、自分で他の車を停めて病院まで運んでもらい命拾いをした。救急車を待っていたら出血多量で死ぬ所だったというのが本人の言だった。それ以来自分一人で働くことから組織作りに進んで行ったように見えた。

昨年秋、台湾から帰国した浜口さんに空港で偶然に出会い、ジョニ黒を一本ぶん取って来た時、彼の病の兆候が現われた時期だった。台湾で心臓の発作を起したそうで、今考えれば貧血の症状であったのだろう。2月27日の手術は、私も勧めたし本人も胃からの出血を気にしながらでは十分な仕事はできないと進んで受けたのだが、朝10時から夕方6時までの長いものであった。手術からの回復は早かったが、見舞に行った持見せてくれた脇腹の第二の傷が私にはショックだった。

彼の気力は手術などではまったく衰えず、退院許可の出る前に九州へ出かけると頑張り出し、諫めるのに苦労した。4月30日に退院して白浜へ養生に出かけたが、再発して入院した。この時点では浜口

さん自身も危険を感じていたであろうし、私も病状の進行の早さに驚いた。6月10日に見舞に行った時も、弱音一つ出さず仕事の話をし、呑み物に挑戦していたが、もはや胃が受け付けなかった。12日意識が薄れ、17日未明亡くなった。

春秋に富む若い世代の中に最近ともすれば見失われがちな気力と生命力のかたまりのような日本男児が一人いなくなった事は誠に悲しい。

基礎工学部 田 崎 明

## 編 集 後 記

蒸し暑い梅雨の続くさなかに第7号の編集を終えましたが、この号が皆さんの手許にとどく頃は梅雨もからりとあけて、冷たい水のほしい真夏がやってきている事でしょう。

最近では極低温や超伝導も、低温や物性の限られた研究者の対象だけでなく、医学や公害防止などにも応用が考えられる様になってきました。超伝導マグネットによる磁気浮上、磁性イオンの磁気分離などはこの例と言えましょう。

低温センターだよりの編集の席上でもこの様な興味あるテーマ、新しい研究について、ニュースが色々と聞かれます。私達はこれらの研究が着実に成果があがる事を期待すると共に、編集にたずさわる者として、「低温センターだよりの」がセンターからのたよりである事以上に低温に関係した研究者からのたよりであって、これら新しい着想の発展のためのよきコミュニケーションの場となってほしいと願っています。

〔中 島 記〕

大阪大学低温センターだよりの 第7号

昭和49年7月 発行

編集責任者 長谷田 泰一郎

発行者 大阪大学低温センター

吹田分室 大阪府吹田市字山田上

電話(06)877-5111

内線 4105

豊中分室 大阪府豊中市待兼山町

電話(06)856-1151

内線 2562

印刷所 とうけん社

大阪市福島区海老江下2-11

電話(06)451-1061

代表 村上喜与志